

R01-802 漕艇事故 抄録1 1903—1945

Serious Rowing Accidents in Japan, 1903-1945

明治期の漕艇競漕は主にフィックス艇によるもので、「遠漕」が盛んに行われ、無謀な遠漕に起因する遭難が少なくなかった。その様子は、「東北大学漕艇部百年史」にも見ることができる(p18～26)。それによれば、遠漕が始まったのは明治28年、それから次第に大規模となり、そして明治36年、39年に遭難が発生した。それまでの8年間にも、死亡に至らないインシデントがあったかもしれない。次第に規模が拡大しながら遠漕のノウハウも蓄積され、おそらく技術・体制ができた頃に、事故が発生、犠牲者が出たのだろうか。

1 二高(現東北大) 1903(M36)4.2/2名

フィックスで、8名が阿武隈川に遠漕、5日行程の帰路、名取川河口に正午前に到着、沖で弁当を食べることになった。しかし河口から出ると、川の流れと海の波の干渉で、強いラフコンディション。浸水しズブぬれになりながら、艇を廻すのは危険と、そのまま一旦沖まで出た。濡れねずみになったがまま、河口を避けて陸に平行に数100m北上し、砂浜への上陸を試みた。しかし岸から200mのところ、沖からの大きな波を被り転覆し全員が投げ出された。6名が転覆した艇の竜骨にしがみついたが、片側からとりついたので、艇は何度も回転し、体力を消耗した。2名は艇に近寄ろうとせず、一人は艇尾から4m離れたところでオールを脇に挟んで浮いていたが、呼んでも応えず、凍えきった様子。もう一人は、転覆した時点から岸へ向かって泳いだ。別の一人が艇を捨て、オールを持って岸に向かい、彼の脇を通り過ぎたときに、彼は漂うばかりで返事もできなかった。大きな波が来て、二人は水中に没した。艇は岸の近くまで流されていった。泳いだ一人が浜につき、浜で遊んでいた子供が、村に急を知らせた。すぐに救助艇が出てそれも転覆する始末だったが、なんとか艇を岸まで引き寄せることができた。行方不明となった二人は、4月17日に遭難場所から北18kmで一人が、4月19日に北16kmで一人が漂着。

2 二高(現東北大) 1906年(明治39年)3月29日、1名

フィックスで7名が石巻遠漕へ出艇。川岸で町民の見守る中を、北上川河口から沖へ漕ぎ出して行った。海上は波が高く、河口の見張り番が、引き返すよう合図したが、血気盛んなクルーはそのまま漕ぎ続け、河口沖の、通称「一の折」「二の折」と呼ばれる難所で、波に飲まれてひとたまりも無く転覆した。見張り番が半鐘を鳴らし、すぐに救助艇が向かい、6名が救助されたが、一人(1年生)が行方不明となった。この事故を受け、4月10日に、当分の間、遠漕の禁止が発表され、遭難者には5カ月の乗艇禁止の処分が下された。半年後、鳴瀬町余景浜に白骨化した遺体が漂着、蜂章の金ボタンから、身元が判明した。

※以上2件の詳細は、「東北大学漕艇部百年史」(2003)に掲載。

3 東高商(現一橋大) /1907.12.30/2名

フィックスで悪天候下を利根川に出艇、水域固有の波を受け沈。

戦前(1903～1945年)には、主にフィックスでの沿岸乗艇での事故があった。そのためクルーの全員が犠牲となり、一度に多くの人命が失われる事故も少なくなかった。

4 返子開成中学 /1910.1.23 /12名

ギグ艇で悪天候下を未熟なクルー(部員外を含む)が無断出艇。江ノ島沖で遭難し全員死亡。追悼歌の「真白き富士の根」が当事流行。

5 東大農学部 /1933.4.1 /1名

タブペアが船の波を受けて沈。離艇し溺死。

6 二高他 /1934.12.28 /10名

二高7名と東北帝大3名(現東北大)がクリンカーエイトで松島湾(石巻・塩釜間/40km)遠漕。帰路の午後2時過ぎに沈没。低温、2日後以降に全員の遺体を収容。風波による沈と思われるが、出発時、艇に破損があった可能性もある。

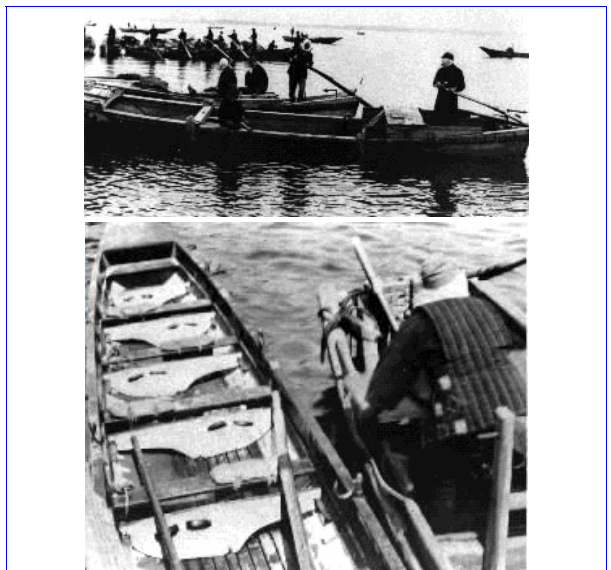
詳細：東北大学漕艇部百年史(2003)

7 旧制和歌山中学(現・桐蔭高校) /1940.3.16 /8名

乗艇予定だった経験ある先輩が用事で帰宅。強い西風で白波が立つ悪天候の朝9時、和歌川河口をフィックス「明光号」8名(新人ばかり、定員過剰)は片男波の艇庫を無断出艇。和歌浦を横切り練習場所の紀ノ川に向かう途中、昼頃、強風のため沈。沖に流され、艇を離れ岸に泳ぎ着こうとして凍死した模様。翌日1遺体のみ収容。和歌川沖は潮流が激しく波が立つことで有名。翌年、片男波海岸に、「八魂歌碑」建立。2005年、音楽家・天勝龍輝氏が、追悼歌「友よ静かに眠れ」をCD化。

8 四高(現金沢大) /1941.4.6 /11名

7時、フィックスに現役8名とOB3名(定員過剰)で強風下を琵琶湖に出艇。翌7日に浮遊するオールを発見。11名の遺影は今も金沢大の艇庫に掲げられている。



当事の搜索の様子。(以下同。毎日フォトバンクより)